

平成27年度第2回 七尾市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成28年2月26日(金) 午後1時58分から午後2時50分

II 場 所 七尾市役所3階 302会議室

III 出席者

【構成員】七尾市長 不嶋 豊和
七尾市教育委員会
委員長 山下 敏博
委員長職務代理 寺岡 卓子
委員 大森 重宜
委員 室屋 美佳
教育長 近江 一芳

【事務局ほか職員】

総務部長 岡野 崇
教育部長 浦辺 常寿
企画財政課長 福島 外哉
教育総務課長 石川 利樹
学校教育課長 藤澤 浩
教育総務課課長補佐 横川 俊充
企画財政課課長補佐 平畠 基次
企画財政課主幹兼企画推進グループリーダー
宮森 道夫

IV 議事

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) これまでの経緯について
 - (2) 教育大綱案について
 - (3) その他
- 3 閉会

V 議事の経過(要点のみ掲載)

◎**福島企画財政課長** それでは、ただいまから平成27年度第2回総合教育会議を開催いたします。まず初めに、不嶋市長からごあいさつをお願いいたします。

◎**不嶋七尾市長** 第2回総合教育会議にご出席をいただき、本当にありがとうございます。昨年6月12日に第1回総合教育会議を開催し、教育委員の皆さまの教育に対する考え方について発言をいただきました。教育委員会と市長が教育行政

の推進について、さらに連携をしていくことが必要ということを確認させていただいたと思っています。本日は教育大綱の策定について協議をいただくことになっています。基本的な考え方ですが、七尾市には平成30年度までを期限とする総合計画がありますし、それを基に作った、子ども・子育て支援事業計画、いじめ防止基本方針、食育推進計画、スポーツ振興計画、子どもの読書活動推進計画などがありますので、それぞれの計画の根本部分を落とし込んでもらうという思いを私は持っていました。教育委員の皆さまには、そんな方向で是非大綱のたたき台をまとめとめていただきたいと思います、事務局にも指示していました。本日は、よい大綱ができたのではないかとと思っています。委員の皆さまにお礼を申し上げます。29日から市議会定例会が始まりますが、平成28年度の教育関係予算は、しっかりとこの大綱を踏まえたような予算になっているのではないかなという思いです。全体予算総額ですが、337億7,000万円という大きな金額になりました。とりわけ教育費ですが、シェアで申し上げますと17.1%を占めるということで、金額は57億6,200万円と本当に大きな予算です。ハード事業で言いますと、何とんでも七尾中学校建設に係る予算、それから中島中学校の改修予算も措置させていただきました。それから県と行う博物館も実施設計にかかるということで、平成30年は能登国立国1,300年という節目の年ですので、それまでに完成するよう整備を加速させていきたいと思っています。それからスポーツ施設では、田鶴浜体育館の耐震改修予算を計上させていただきました。子ども達のソフトの関係の事業ですが、土曜授業を地域の力も借りて新たに取り組むための予算を準備しました。それから小中高連携の英語教育の推進や七尾城跡の保存活用計画の策定も怠りなく進めていきたいということです。大綱を確認して、これに基づいて教育行政が前に出ていくようにということです。この総合教育会議ですが、委員の先生方と一緒に顔を突き合わせて、同じ土俵で教育について語る事が大事だという意味で、法律も変わったと思っています。きょうも大綱の審議をしていただくわけですが、これをしっかりと共有して、子ども達及び教育のために、仕事が行くように、是非協力をいただきたいと思います。よろしく願い申し上げます。

◎**福島企画財政課長** ありがとうございます。それでは引き続きまして、議事に入りたいと思います。これ以降の進行につきましては、七尾市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、市長にお願いいたします。

◎**不嶋七尾市長** 座って進めさせていただきます。冒頭のあいさつでも話をさせていただきましたが、本日の議事は教育大綱の策定です。これまでの経緯について、説明をお願いします。

◎**福島企画財政課長** 教育大綱策定までの経緯について、ご説明いたします。平成27年6月12日に第1回総合教育会議を開催いたしました。その席で、まずは教育委員会の考えをまとめるということで、決定させていただいています。それ以後、平成27年8月25日に教育委員会で教育大綱案打合せ会を開催し、国の教育振興基本計画と市の総合計画に定める「教育」「芸術・文化」の内容の検証、

基本理念と基本方針等について確認、県内の教育大綱の確認をしました。小松市・津幡町です。続きまして、平成27年9月29日に基本理念と基本方針(案)について議論をしていただいています。その後、10月27日と平成28年に入りまして、1月28日、そして2月12日に、それぞれ定例教育委員会で審議をいただき、第2回総合教育会議へ提出する大綱案を決定していただいております。この間、平成28年1月8日に市長ヒアリングを実施させていただき、その結果を受けて、平成28年1月27日から2月10日までパブリックコメントを実施いたしました。意見は特にありませんでした。以上です。

◎**不嶋七尾市長** 事務局から経緯について説明がありました。委員の皆さまには、大変ご苦勞をおかけしたわけです。深く感謝を申し上げます。次に、このようにでき上がった教育大綱の内容について、事務局から説明を願います。

◎**石川教育総務課長** お手元の資料をご覧ください、七尾市教育大綱案です。表紙に「～七尾に誇りと愛着を持ち、輝く未来を拓く人づくり～」とありますが、これが基本理念です。それでは1ページをご覧ください。大綱の計画年につきましては、平成27年度から平成30年度までの計画期間としています。七尾市の総合計画を頭に、教育・芸術・文化に関する内容を取りまとめたものとしています。以下、その基本理念であります。先ほど申し上げましたとおり「～七尾に誇りと愛着を持ち、輝く未来を拓く人づくり～」としています。その下に基本方針としまして、七尾市総合計画に定める5つの教育の枠組みですが、1つ目に「ふるさとに誇りをもち、責任とモラルを重んじる心豊かな人づくり」、次に「学校施設の適正化と安全で安心できる教育環境づくり」、次に「グローバル社会を逞しく生きる、心身共に健康で確かな学力をもった人づくり」、次に「生涯にわたり知力・体力を高め、生きがいを持ち続ける人づくり」、最後に「歴史・伝統文化を継承し、優れた芸術・文化を創造する人づくり」、この5本の柱建てとしています。総合計画を頭とし、教育大綱を位置付けたものです。次に、その体系図ですが2ページをお開きください。七尾市教育大綱の体系としまして、基本理念を頭に左側の5枠です。「ふるさとに誇りをもち、責任とモラルを重んじる心豊かな人づくり」から最後の「歴史・伝統文化を継承し、優れた芸術・文化を創造する人づくり」、これが先ほどの基本方針の5本の柱ということになっています。右側の欄につきましては、「子どもの健全育成」から一番下段の「地域に根ざした演劇文化の振興」につきましては、七尾市総合計画で定める計画を掲載してあるものです。以下、3ページは根拠法令等の資料を掲載しています。以上です。

◎**不嶋七尾市長** ただいま大綱案の説明がありました。改めて目を通していただいて、何かお気づきの点がありましたら、ご発言をいただきたいと思います。私としては、まったくご異議はありませんが、皆さまから教育の専門家の立場として、ご発言をいただければありがたいと思います。

発言なし

◎**不嶋七尾市長** よろしいでしょうか。それでは、この案を七尾市の教育大綱として定めさせていただきたいと思います、ありがとうございます。ここからは、大綱及び大綱に基づく教育行政の進め方などについて、委員の皆さんの思いを言っていたければありがたいと思います。

◎**山下教育委員長** それでは私から申し上げます。きょうの新聞に気になることが出ていました。県の教育振興基本計画のことが出ていましたし、石川県と富山県が都会のほうに行き、Uターンを促すための取り組みをしたという記事がありました。最近では人口減少と地域の活性化という、相反するようなことに取り組んでいかなければならなくなっています。それは行政のほうであるのかもしれませんが、こういう状況が続いているということは、私としては教育行政と言いますか、学校教育でも一翼を担っていかなければならないのではないかと気がしています。例えば人口減少に歯止めをかけたり、地域の活性化を促したりする場合、教育の分野で何ができるのかと考えたときに、七尾の教育はこれだというようなものを、一つ提案する必要があると思います。それに沿って子どもを育てることが教育政策になるとは思います。第1回総合教育会議のときに、例えば、七尾が国の学力調査の結果がよいから、七尾に子どもを来させたいということはあるのだと申し上げました。時代の流れと言いますか、時代が求めているもの、それから親が求めているものを、しっかりと学校現場、教育現場に反映させていくことが、非常に大事なことではないかと思えます。そういうことで、事務局には、具体的な施策をどんどんしてもらいたいと思います。例えば市長が言いましたように、英語教育というのも一つの方向だと思います。私が初めてインバウンドという言葉聞いたのは、昨年6月か9月の市議会定例会で、木下敬夫議員が質問をしたときでした。今ではインバウンドというのは、日本語になってしまっています。ときの流れが大変早いので、大綱の3番目にグローバル化とありますが、地球規模で物事を考えた場合には、当然出ていかなければならないこともあるし、来た人をもてなす対応もできる子ども達を育ててもらいたいと思っています。それからもう一つは、大綱に書いてあるように、七尾に誇りと愛着を持って、広い視野に立って社会に貢献するような人間を育成するときには、最近では4年制大学を目指す生徒が5割を超えて、やがて6割ぐらいになると言っている時代で、都会の便利な生活に慣れたらなかなか帰ってこない傾向にある中でUターンを促すときには、やはりふるさと教育が大事だと思います。そういうものをどんどん学校教育の中で、入れていくような方策を考えていかなければならないという気がします。それから国の方では、小中連携ではなく小中一貫校と言っていますが、七尾市は小学校の数に比べて中学校の数が統合で少なくなっていますから、一貫校は難しく、中島地区だけが残っています。そういう状況になってきていると思うので、コミュニティスクール構想というのがあると思いますが、まさに地域の教育資源をどんどん利用して、学校教育の中に地域の教育資源をどんどん取り入れていくような取り組みが必要だと思っています。例えば、のと共栄信用金庫に全面的にバックアップしていただいている環境教育のレベル

は、七尾市は全国トップレベルになったのではないかなという気がしています。そういうものをどんどん続けていくと、ふるさとに愛着を持って誇りを持つような人間も育つのではないかと思います。例えば、大森先生のところの大学でも、最近では学生が地域に入り込んでフィールドワークを行って行くことがあります。そういう機会に、どんどん子ども達も交流の中に入れていって、地元のよさを知るといふ取り組みも必要になってくるのではないかなという気もしていますので、何とかコミュニティスクールみたいなものを少し進められればよいなと思っています。

◎**不嶋七尾市長** 補足させてもらいたいと思います。子どもは大体400人くらい七尾から出ていきます。七尾高校と東雲高校の生徒は、ごっそりといなくなるという感じです。私も県教育委員会にいて、何故だろうと思ったのですが、七尾高校を目指すからだと率直に感じています。グローバル化という教育をし始めたら、ミスマッチもあるから七尾に帰ってきても就職ができないことがあります。七尾高校だという時代は、もしかしたら終わったのかなという思いもあります。教育委員会は、小中高連携によるグローバルな子どもを育てる、英語だと言いますが、やってしっかりとした子ができたら、本当に七尾に帰ってくるのですか。教育委員会としても、普通科志向についてどう思っているのですか。皆、七尾高校にやって、先生方がほっとして、うちの子は七尾高校だと言うのかもしれませんが、そこに行ってしまったら、ほとんど帰ってこない、偏っていると思います。ですので、山下委員長が言われたように、ふるさと教育が大事だと思います。風とか光とか空気は、みんな体に染み付くので忘れることはないのですが、普通に食べていくときに、自分の蓄積した教育や力と七尾の産業、働き場所が本当にマッチしたものになっているのかどうかということも大事です。高等学校教育というのは、もしかしたら教育委員会と高校とやっておかなければならないなという気がします。コミュニティスクールの関係は、のと共栄信用金庫の例もありましたが、着実にできてきていると思います。地域の先生方を学校に入れて、どんどん特別活動のような形にしながら、目を向けるような話を行っているし、これから行っていかなければならないと思いますが、そんなことを思っています。成績がよくなれば高いところを目指すものですから。私は高校再編で珠洲にいったときに、飯田高校や輪島高校がありますが、「そんなところに子どもをやったら駄目なのだ、心がよくて、祭りなどに参加して、野球をやって、ここに残る子こそが地域の学校を守るのだ」とお母さんがおっしゃったときに、ああそうなのだなと思いました。しかし、地域は飯田高校と輪島高校をとって、実業系はぎゅっと絞りました。七尾でもそうです。七尾高校は6クラスですよ、他のところはどんどんしぼみますが。これって本当に大丈夫なのかと思います。地域を守るといふ意味で言うと、そんな気がしています。金沢あたりはまだ、御三家が定数を落とさずにしっかりと優秀な子どもをとって、金沢で縛る気はありませんから。しかし、七尾ではどうなのだろうというのは、率直に言っていました。できない子をつくれと言うのもどうかと思います。しかし、七尾高校に入れたらほっと一安心とい

う感じですからね。本当にそれが地域に貢献する人材を育てているかという、日本的にはよいと思いますが、七尾に若い人を定着させるかどうかという部分では、教育の在り方そのものを、普通科志向、怒られますが、七尾高校志向というのは駄目なのではないかと思います。

◎近江教育長 市長も委員長も言われましたが、学校教育の競争性、そして人口減少対策という中で、七尾市教育委員会、学校教育課を中心に行っている小中校連携活動は、決して小さな範囲のイメージではなく、やはり多くの人達と交流する機会にとっては、語学の必要性をものすごく感じるわけです。人との交流の機会をつくるという意味で、語学を学ぶことによって、早く国際的な感覚を身につけた子ども達を育てていく。我々が調査をすると、一人ひとりの将来に対する夢が少なく、夢を持っていないで進学希望であるというところが問題なのです。一人ひとりの中学生、小学生の中で、将来の夢というものが、ある程度ふるさとに残って何々を継ぎたいとか、あるいは大学へ行って何々になりたいとか、色々な思いを持つ、一人ひとりの将来の夢をどこかで描かせてあげることが必要です。実現可能かは別にして、そのためには、英語やふるさと教育、地域の先生を招いてのお話など、より多くの情報を子ども達に与える中から、自分の将来を描いてもらいたいと思います。大きな将来の夢で、ごく一部であっても高い語学力が必要なときに、それがないために実現できなかったとしたら、かわいそうな訳ですから、七尾にあっても金沢にあっても負けない力を持った子どもが育つための環境をつくりたいと思っています。それを活かし切るかどうかは分かりませんが、自分の将来の夢の実現ために、いつでも使いこなせるような能力を身につけるようにしてあげることが大事だと、我々は思っています。そのような中、普通科から大学まで行く人もいれば、そこから就職をするとか、色々な道があると思います。就職の多様化の中で、是非活かしてもらえる機会を広く与えられればよいなという思いをしています。それと平成28年度予算の中で、市長には七尾中学校の建設を含めて、教育に関する予算をたくさん盛り込んでいただきました。たくさん投資して学校を造っていただいたわけですから、今度は学校から七尾をつくるお返しをする、そこで育った子ども達が、今度は地域にお返しをする、七尾市にお返しをするという人材づくりをしていかなければならないという思いを持っています。そういう人づくりをするための学校であって、地域から離れていくような人材づくりをするのではないという認識を私達は持ち続けて、子ども達と向かい合わなければいけないと思います。素晴らしい学校のお返しは、そういったところまでできるという教育展開をしていきたいと思っています。そのためには、小中校の連携を含めた英語や土曜学習を行ったり、幅広い教育を展開することが大事かなと思います。それが人口増に繋がらないことがあるかもしれませんが、素晴らしいふるさと教育を学んだことにより、ある年代の中で、ふるさとへの思いをさせたときには、いつでも帰ってこれるという状況づくりができればよいのではないかという思いを持ちながら、教育行政を進めていければよいなという思いを持っています。

◎大森委員 21日に文部科学大臣と金沢市長がシンポジウムを行いました。チャンスだなというイメージを持ちました。というのは、東京オリンピックがありますが、オリンピック・レガシーという言葉があります。オリンピックが終わってから何が残せるかということです。実はロンドンオリンピックが大成功に終わった理由は、地方で千カ所、18万回にわたるカルチュラル・オリンピアドという言葉で、オリンピックとは関係ないようなこと、例えば音楽祭や演劇を行ったりしました。もちろん既存のスポーツイベントもそうなのでしょうけど、今その地域が持っている課題に、少しでもこれを利用して何かできないかということです。もし東京オリンピックがなかったら、日本の社会はきっと現在でも、もう少し大変なことになっていたのではないかと思います。新幹線がついて、地方のありようを代表的に考える場所だという理由で札幌と金沢の2か所指名があり、先日、金沢でシンポジウムを行いました。28日は札幌で行います。新たなイベントをつくる必要はないと思いますが、何かイメージとして湧いてくるような、あるいはその結果、子ども達が七尾にいても世界を感じられるように、東京に行かなければいけないという感覚を持たない子ども達を育てることができるのではないかと思います。七尾に居て世界に繋がるのだというような、それこそ教育長が言われたような英語教育もそうですが、特別というか、当たり前にならなければならないことなのかもしれませんが、何かそのようなことを行っていけばよいのではないかと思います。何度も言いますが、ロンドンは千カ所、18万回ということで、それがロンドンの意識を随分変えたと聞いております。結果的にメダルもたくさん獲りましたし、国も地域も盛り上がりました。直接的ではないので、なかなか市民には腹に落ちないかもしれません。これと何の関係があるのだということかもしれませんが、それはきっと知恵を出せばできることだと思います。ロンドンの事例もありますし、そういう本も出ていますので、七尾も行ってよいのではないかと思います。せっかく施設もたくさんありますから。

◎寺岡教育委員長職務代理 先ほどから皆さん言われているように、やはり子ども達が夢を持たないと駄目だと思います。しかし、親が子どもに夢を持たせないとか、大きくなったら大きい企業に務めるんだよ、休みがいっぱいあるところがよいところだよというように、親の方が子どもに聞かせているという話も聞いたことがあります。子ども達が小学校卒業の際、夢は何ですかという文集を書くときに、七尾高校に行くことという子どもが何人もいるそうです。家庭で保護者がそういう話をしているのか分かりませんが、そういう影響もあるのだなと思います。ということは、やはり一番は家庭教育だと思っていて、何よりも家庭が全てに繋がっているなと思います。学力にしても生活面にしても、生きること、人生を切り開くこと、全てがそうだと思っているので、それに準ずる、今であれば市PTA連合会やPTAの方々と方向性を共有して、共同で支援していくような体制づくりが必要かなと思っています。私達は保護者の方とよく話をするのですが、この保護者が育てる子ども達が、また保護者になったときに、親の背中を見て子ども達は育っているので、どんな世の中になるのかなという話まで、色々な

保護者の会合で聞きますので、そこは一番大事なかなと思います。それと民生委員の方とよくお話をすることがあるのですが、お年寄りの方が少しでも子どもと繋がりたいと思っているということです。もっともっと声をかけてくれれば、私達どんなことでもお手伝いできる、もっと子ども達と関わりたいという声があるのですという、色々な地域の民生委員の方の声を聞いています。これはお年寄り子ども達がふれあう機会を持つ、また、公民館も広域化されているということで、その中で、公民館の中でも同じような、子ども達だけではなくて親も参加できるような形になればよいなと思っています。先ほど委員長が言われたように、大学生が地域に入り込んでいる、だから子ども達も地域に送り込めばよいということになると、親が自ら背中を見せるべきだと思います。ちなみに私の子ども達は、七尾に帰ってきて、七尾で子育てしたいと言っていますが、子育てしたい、七尾に住んでよかった、七尾に帰りたいと、そういう思いで親が思っていれば、子ども達に伝わるのではないかなと思います。悲観するほど、七尾に帰ってきたくないと言う子ども達はいなくて、何かあったときは必ず帰ってくるという子ども達の声をとくさん聞いているので、とても明るい未来だと感じています。

◎**室屋委員** 私の子どもは考え方が違って、中学校のときに看護師になりたいと言い出したのですが、看護師になるために勉強をしたら成績が上がったのです。すると今度は先生が、七尾高校へ行ってから看護師になればどうかと言いました。私の子どもは、七尾高校に行っている暇はないと言って、僕はいち早く看護師になって人を助けたいということで、田鶴浜高校に行きました。今度は田鶴浜高校に入ったのですが、七尾高校や東雲高校と同じで、せっかく看護師になったのに地元に残らないのです。そのときに男子が4人いたのですが、4人とも七尾から出て行ってしまいました。看護師になっても、なったのがゴールではなくて、そのやりたいことが、申し訳ないですが七尾の病院にはないということで、違う病院に行きました。結局、勉強して資格を取って、英語がペラペラになっても、それを生かせる企業が七尾にはないというのです。それから始めないと、残らないのではないかなと思います。

◎**不嶋七尾市長** 七尾の企業は人手不足です。能登病院の看護師は、今は充足しているのです。なかなか入ってもらえないという状況だったのですが、入ってくれるようになりました。というのは、一回は都会へ出てという話もあるのですが、やはり大変なようです。金沢近辺の大病院あたりは結構大変で、ふるさとへ帰ってこようという子が結構出てきて、能登病院では、今は試験で落とす看護師もいますという話もしていました。Uターンしています。どの企業でも、1人でもよいですが毎年1人採用したら、40人の定数になりますから。こんなことが企業はできるのかという話もあって、相対的には企業の人を雇う間口は狭いのだろうと思います。

◎**近江教育長** 能登病院のような大きなところでなくて、小さな医院であっても看護師が不足しています。紹介いただけませんかという声を聞くことが多いので、ある程度の年齢で辞められても看護師は資格を持っていればできるので、大変よ

い仕事で、社会からのニーズもあるので、素晴らしいと思います。

◎**不嶋七尾市長** 小さなお店が人を採用したら、10年、20年は人がいないという話になると、務めた人も含めて、やりがいと生きがいと持って、そこで骨をうずめられるのかどうかという話もあり、なかなか難しいところです。そういう意味では、人を雇いにくいのだなと思います。ある経済界の人が、津向町にある職業訓練校に、しっかりと地元で根付くような人を入れる課を設けるべきだと言われました。学校を設けていくときには、定数を10人や15人でしたときに、毎年その子たちが出ていきますから、それを七尾の企業がしっかりと受け止めて、毎年その人数をとっていくだけの幅があるのかどうかを見極めて言ってもらわないと、思いつきで言ってもらっても困るという話はさせていただいたことはあります。田鶴浜高校あたりは、もしかしたら県外からもきているかも知れませんが、地域では、40人をしっかりと吸い込むことはできないのかもしれませんが、能登病院と恵寿病院で毎年15人くらいは採用できる容量がありますから、募集してくれています。

◎**近江教育長** 国際医療福祉専門学校七尾校があります。救急救命士等、消防関係のところを受験したりして、合格率を上げることにより、定員いっぱいになってもらえるような努力をお願いしますという話をしたことがあります。合格率を上げていくことによって、たくさんの若者が受験してもらえるということがありますので、もっとたくさんきてもらえるような施策を、地域全体で協力しながら確保していく手立てを講じることによって、地域が活性化していく一つになるかなという感じがします。

◎**不嶋七尾市長** 消防本部では、救急救命士は2年か3年に1人としていけばよいような感じです。40人、50人全部を石川県でということは無理なので全国へ行くのですが、18歳から20歳まで、100人なら100人、七尾で生活してもらうことにより地域経済の活性化にはなりますが、50人が資格を取って、七尾でできるのかとなると難しいものがあります。ですから、外へ出す教育をしているのです。

◎**山下教育委員長** 多様な学習活動とか色々なことを学んできた子どもが帰って、ここで就職、生活するということは、劇的に変化することはないと思います。それを初等教育でどうやって教えるかということが、問題になってくると思います。

◎**不嶋七尾市長** 学習指導要領で縛られているから、なかなかできないと思います。教えることは決まっていますから。違ったことができるのは週に1時間くらいでしょう。

◎**近江教育長** 総合的な学習の時間です。

(以降、しばらく議論)

◎**不嶋七尾市長** よりよい方向に進めていけるように、ともども頑張りましょうということで、よろしく願いいたします。では、その他について、今後のスケジ

ジュールなどの話が事務局のほうであれば、説明してください。

◎**福島企画財政課長** 本会議において教育大綱が定められました。2月29日開会の市議会3月定例会、全員協議会のほうで、教育大綱の内容を説明させていただきます。その後、市のホームページで公表させていただきたいと考えています。それから今後の本会議のスケジュールですが、当面審議する事項がありましたら、その都度開催させていただくということで、事務局とすれば新年度の予算編成前には一度お集まりいただいて、意見を聞かせていただきたいと思います。

◎**不嶋七尾市長** 平成28年度予算の執行状況も含めて、1回ならそのタイミングですし、9月補正とか6月補正あたりでしっかりと教育予算が盛り込まれるという話になったときには、また集まっていただいて、このような意見交換ができればよいと思いますので、よろしく願います。教育委員会が開催される日の前後の時間帯で集まっていただいて、意見交換ができればよいと思いますので、よろしく願います。以上で本日の日程は終了しました。この際ですので、何かということがあれば、発言いただきたいと思います。

しばらく沈黙

◎**不嶋七尾市長** 特にございませんか。事務局からありませんか。

◎**福島企画財政課長** ございません。

◎**不嶋七尾市長** なければ、本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。今後ともよろしく願ひ申し上げます。